

2024年度 一般選抜中期日程 [経済学部] 経済・公共マネジメント学科 英語
出題の意図と解答の傾向

I (160点)

英語を実際に使用する能力が身についているかを見るために、設問もすべて英語とした。

問1 (5点)

【解答】

b) accustomed

【解答の傾向】

正答率が低かった。a) evaluated の答えが多かった。
accustomed to ~の意味が取れなかったのだろうか。

問2 (5点)

【解答】

d) assets

【解答の傾向】

正答率が非常に低かった。c) tools との答えが多かった。
情報技術の革新で金融資産（国際送金や株式取引等）が、国境を越えて迅速にできるようになったことを述べていることが理解できていなかったのか。

問3 (30点)

【解答例】

グローバル化は、原材料を安い地域から手に入れることでビジネスに競争上の優位性を提供しています。

【解答の傾向】

globalization、provide with、inexpensive、allow to、raw materials、competitive advantage の単語の意味が捉えられていないために、全体の意味が理解できていない解答が多く見られた。

問4 (30点)

【解答】

⑥ left ⑧ and

【解答の傾向】

正答率（left, and 完答）は高かった。

問5 (30点)

【解答】

(a) to (b) for (onは5点) (c) in (ofは10点)

【解答の傾向】

(a)と(b)と(c)の完答は少数。また、(c)の正解者は「in」より「of」と答えた受験者が多数であった。

問6 (30点)

【解答例】

発展途上国では、経済が急速な変化を遂げているため状況はより複雑になっている。

【解答の傾向】

- ・「その状況」は、「発展途上国で(において etc.)」は、「より複雑である(になっている etc.)」、(順不同)という構造が理解できているかを見た。
- ・undergoing、complex、the developing worldの誤訳が多く見られた。
- ・“where”(関係副詞)の理解について、“where”の指し示すものをほぼ理解しているかを中心に採点した。

問7 (5点)

【解答】

d

【解答の傾向】

正答率が高かった。

問8 (25点)

【解答】

d

【解答の傾向】

正答率は5割を下回った。

II (40点)**【解答】**

1. ① wondering ② how
 ③ to ④ complete
2. ⑤ brought ⑥ up
 ⑦ include (bringは1点) ⑧ it (that、somethingは5点)

【解答の傾向】

セクションIIでは、受験生は選択肢から適切な動詞を選び、必要であれば語形を変化させ、前置詞や副詞や接続詞と組み合わせて解答することが求められている。文法的に正しく、意味が通じれば40点である。文法ミス、綴りミス、使い方のミスで減点している。

受験者の9%が60%以上の正答率、4つの質問にすべて正解した受験者はいなかった。30点以上は2.5%であった。表1に点数の散らばりをまとめている。表2は質問の得点10点満点中の内訳を示している。基本的な統計は表3に示している。

Range	0-9	10-19	20-29	30-40
% of scores	23.4%	57.3%	16.8%	2.5%

表1 : Range of scores

Score	0	1	2.5	4	5	6	7	7.5	10
Q1	54.7	0.5	19.7	0.2	12.9	-	0.2	8.6	3.2
Q2	3.2	-	0.6	-	35.7	-	-	3.1	57.3
Q3	75.0	0.8	10.8	-	8.0	0.2	-	3.1	2.2
Q4	49.9	3.4	14.6	-	14.9	-	-	11.7	5.4

表2 : Percentage of points given for questions in section II

N	Min	Max	Mean	Median	SD
649	0	37.5	13.6	12.5	6.7

表3 : Basic statistics for scoring of section II

1. の ①・② は、“I was … … your progress is going.” というフレーズを完成させる問題で、正しい答えは“wondering how”であった。正解率はごく僅かであった。多かった解答は、“wondering if”、語形変化を間違えて wondered / wonder の解答が見られた。誤答として“participate” or “encourage ~” も多く見られた。

1. の ③・④ は、“I’ m going … … the most challenging parts first.” の文を完成させる問題であった。正解は“to complete”であるが、この問題は最も正解率が高かった。“going to ~” のパターンは特に簡単だったようで、ほとんど間違っている人はいなかった。動詞の選択や語形変化のミスが見られた。“to completed” のような語形変化のミスが多かった。

2. の ⑤・⑥ は、“there was a good point … … at the last meeting” の文を完成させる問題で、“brought up” が正解であるが、特に難しかったようだ。“include” を選択したり、“bring” の語形変化を間違えていた。

2. の ⑦・⑧ は、“I’ ll check that and … … in my work” を完成させる問題で、“include it” が正解であった。これもまた、少数の受験者しか答えられていなかった。“include that” という解答が多く見られたが、これは間違いではないが、不自然な文である。間違いが多かった解答は“complete”、“attract” or “participate” を選択して語形変化したものである。

全く間違えている解答や不自然な表現が散見された。答えと元の文の時制が一致していないものも多く見られた。受験生には動詞の正確な使用と異なる動詞句を含む広範な語彙を身につけてもらいたい。